

令和2年度第2回ISO上層委員会報告会

第112回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏) (2020)
ANSI (米) (2020)
BSI(英) (2020)
DIN(独) (2020)
JISC(日) (2022)
SAC(中) (2022)

グループ2

ABNT(ブラジル) (2021)
KATS(韓) (2022)
SCC(カナダ) (2022)
SIS(スウェーデン) (2020)
UNE(スペイン) (2021)

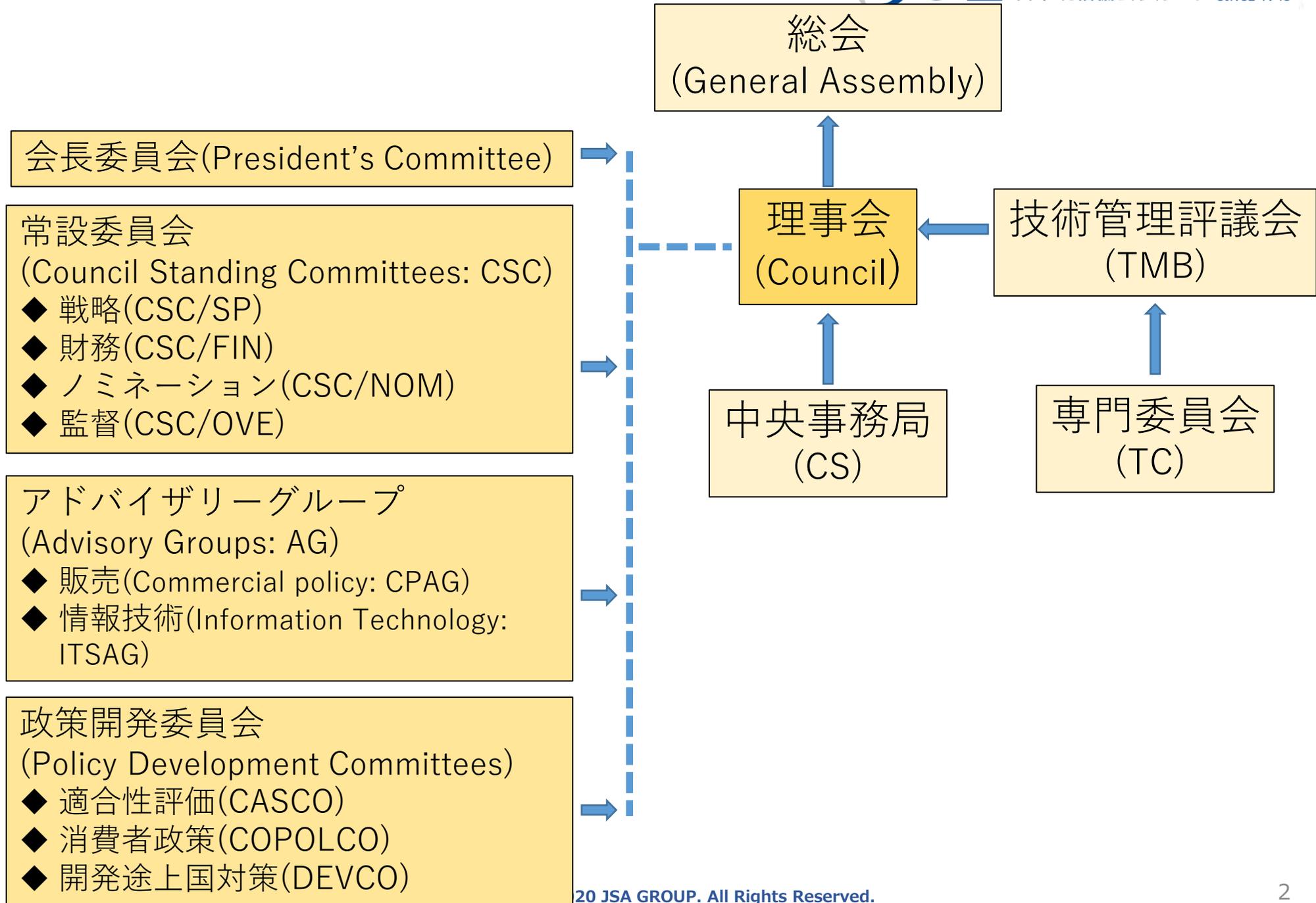
グループ3

BSN(インドネシア) (2020)
ESMA(アラブ首) (2022)
IRAM(アルゼンチン) (2021)
KAZMEMST(カザフスタン) (2020)
SOSO(サウジアラビア) (2021)

グループ4

HZN(クアチア) (2021)
INACAL(ペルー) (2022)
INTECO(コスタリカ) (2020)

ISO Council (理事会)



第112回 ISO理事会 及び 関連会合

2020年6月5日	
10:00-12:00(日本時間：17:00-19:00)	会長委員会
14:00-15:00(日本時間：21:00-22:00)	CSC/OVE
2020年6月8日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:00)	CSC/FIN
2020年6月9日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:00)	CSC/SP
2020年6月10日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:00)	理事会
2020年6月11日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:00)	理事会

第112回 ISO理事会

- 理事会及び常設委員会の会議が、2020年6月5日から11日にかけて、ウェブ会議という形で開催された。
- 時間的な制約等を考慮し、議題を議論/決議を要するものに絞った。決議事項は会議中は確認のみとし、後日投票を行い、正式に決議するという形をとった。
- 本資料では、理事会での主な議論、決議事項をご報告する。

議題2～COVID-19の影響及び事務総長の活動報告

<主な報告事項>

- COVID-19への対応
 - 対面会議をウェブ会議に切り替え
 - 医療機器関連のISO規格の無料閲覧
 - ISO 22301:2019に基づく事業継続計画（BCP）を実施。Minimum Viable Level of Service (MVLS)という考え方で、サバイバルモードを継続
 - 2020年総会の中止
 - ➔ 規格開発に大きな影響は出ていない。旅費の面からこれまで対面会議に参加できなかった発展途上国のメンバーの会議参加が増えた
 - ➔ 財務面は5月末時点では堅調だが、引き続き注意深く対応する必要がある
- COVID-19の影響とISOにとっての機会（opportunity）
- 主な活動
 - 地域グループの会合へのウェブ参加、メンバーとのウェビナー
 - 他の国際組織との関係強化－OECD、IEC、WSC、ICC
- 事務総長の2020年目標
 - 2020年戦略実施計画の展開、地域関与ポリシーの作成、発展途上国に対する作業計画の資金 等々

COVID-19の影響とISOにとっての機会 (opportunity)

- COVID-19の影響とISOにとっての機会 (opportunity)
 - 規格開発のバーチャル化の促進
 - 発展途上国からの参加者の増大
 - 地球規模での効果的な協力が世界的な課題解決につながる例としてのISOの普及
 - 持続可能な世界のkey actorとしてのISO及びISOメンバーの地位の強化

- リスク登録簿(Risk register) – リスクと対策~~CSP/SPでの議論
 - COVID-19の影響を受け、リスク登録簿に登録されているリスクの可能性が高まっているので、登録簿を更新するとの説明
 - 理事会メンバーより、COVID-19は「機会」であるとの強い意見あり
 - 例えば「市場ニーズを満たせない」というリスクの可能性が「高い」→「非常に高い」としているが、コロナ禍をきっかけに市場のニーズにより応えるようになっている

議題3.1～2020年戦略実施計画の進捗及びCOVID-19による修正

<背景>

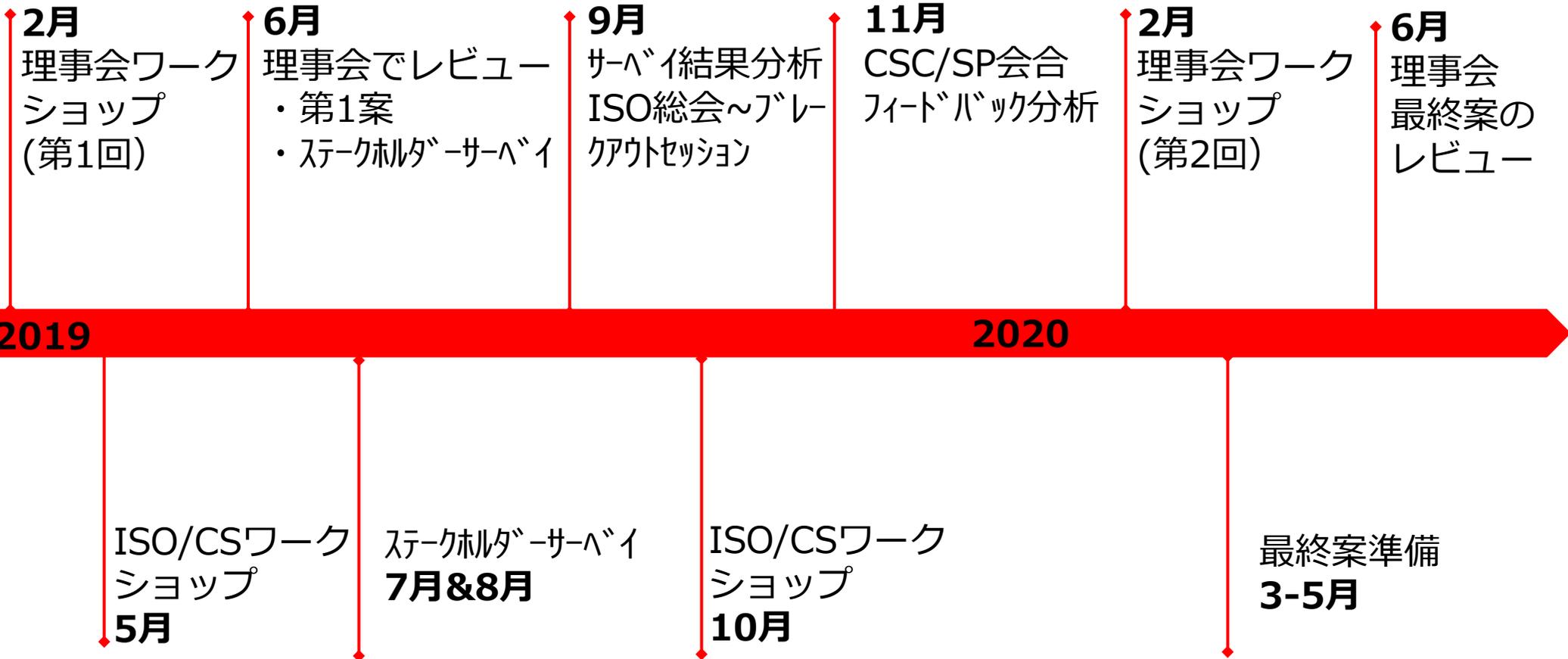
- ISO戦略2016-2020に対する2020年戦略実施計画を承認(2019年9月)
- 実施計画には9件のプロジェクトが含まれ、うち6件が2019年からの継続案件、3件は新規案件。
- 実施計画は四半期毎に進捗の確認を受ける。今回は2020年3月31日現在の報告。
- 計画に含まれるプロジェクトのステータス、進捗度を確認し、全般、リスク、懸念事項、リソース、財務、適時性の観点で各プロジェクトの健全度を評価

<主な報告事項>

- Q1のマイルストーン達成度は58%
- COVID-19の影響を受け、Minimum Viable Level of Service (MVLS)を確保するように設計された事業継続戦略に沿って、プロジェクトの見直しを行い、実施計画を修正する。
- 各プロジェクト毎に「続行」、「延期」、「一時的に保留」等の提案があり、理事会はこれを承認（決議23/2020）

議題3.2～ISO戦略2030

<これまでの経緯>



議題3.2～ISO戦略2030

ISO戦略2030(案)の概要

- ✓ 世界が常に変化し、課題や困難は地球規模になりうる状況で、我々は明確で機敏な戦略を持たなければならない
- ✓ ISO戦略2030は、「我々の展望」「我々の使命」「我々のゴール」「我々の優先事項」を示す

変化の原動力 Drivers to change

- 経済：貿易と不確実性
- 技術：デジタルの影響
- 社会：期待と行動の変化
- 環境：持続可能性の緊急性

- **我々の展望** Our vision - why do we do what we do
- **我々の使命** Our mission - what we do and how we do it
- **我々のゴール** Our goals - what we need to achieve to realize our mission and vision
- **我々の優先事項** Our priorities

議題3.2～ISO戦略2030

ISO戦略2030(案)の概要

■ 我々の展望 **Our vision**

Making lives easier, safer and better
生活をより楽に、より安全に、より良く

■ 我々の使命 **Our mission**

Through our members and their stakeholders, we bring people together to agree on international standards that respond to global challenges.

ISO standards support global trade, drive inclusive and equitable economic growth, advance innovation, promote health and safety to achieve a sustainable future

我々のメンバー及びそのステークホルダーを通じ、我々は人々を結びつけ、グローバルな課題に対応する国際規格に合意する。ISO規格は、世界貿易をサポートし、包括的かつ公平な経済成長を推進し、イノベーションを推進し、健康と安全を促進し、持続可能な未来を創造する。

議題3.2～ISO戦略2030

ISO戦略2030(案)の概要

■ 我々のゴール Our goals

- 展望 (Vision) 達成のための3つのゴール

■ 我々の優先事項 Our priorities

- 変化する状況の中で、ゴールを達成し、影響力を最大にするため、資源を6つの優先事項に集中させる

ゴール	どこでも使われるISO規格 ISO standards used everywhere	国際ニーズに応える Meeting global need	すべての声に耳を傾ける All voices heard
優先事項	<ul style="list-style-type: none"> ● ISO規格の便益を実証する ● ユーザーのニーズを満たすために革新する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市場で必要な時にISO規格を提供する ● 国際標準化の将来の機会を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 能力開発を通じてISO会員を強化する ● ISOシステム内の包含性、多様性を向上させる

議題3.2～ISO戦略2030

＜今後の予定＞

- ISO戦略2030を、9月の総会（バーチャル）で承認

- 「ISO戦略2030」に加え、「実施計画」、「測定枠組み (Measurement Framework)」をパッケージにして、2021年1月1日にリリースする予定。
 - ISO戦略2030をどのように実施していくか、進捗をどのように評価するか
 - CSC/SPでタスクフォースを作り作業
 - ISO中央事務局のコミュニケーションチームと連携し、コミュニケーション計画を作る

(決議24/2020)

議題4.1～2019年会計報告

<2019年報告>

	kCHF		
	2019年実績	2019年予算	2018年実績
収益	43,157	41,666	44,078
費用	39,302	40,966	38,141
剰余	3,855	700	5,938

- 財務諸表の監査では指摘事項は無く健全な状況
- 販売及びロイヤリティによる収入は予算を超過したが2018年より減少
- ISO/CSの職員の予定外の離職等により賃金は予算を下回った。IT運営コストも減少
- 剰余金3,855kCHF – 一般基金積み増し(704kCHF)、投資損失準備金積み増し(659kCHF)、新財政モデルに基づく返還(2,126kCHF)、ISO戦略実施のためのプロジェクト(368kCHF)

(決議25/2020)

議題4.2～2021年ISO会費

<背景>

- 年会費は、ユニット単価×割当てられたユニット数
- ユニット単価は毎年、ユニット数は3年毎に総会が承認。ISO Formulaに基づき、会員国の経済力を加味し、ユニット単価とユニット数を算定

<審議内容・結果>

- 2021年のユニット単価は4675CHF、2021-2023年のユニット数は4539
- JISCに割当てられるユニット数は325(前期は310)
- COVID-19の影響で特に開発途上国で支払いに影響がでるのではないか、過去3年のデータに基づく算定なので今後の経済予測を配慮すべきではないか等の意見
- 上記のユニット単価、ユニット数及びメンバーへの割当て数に対し、総会の承認を求めることとする

(決議26/2020)

議題4.3～2021年ISO中央事務局予算案

<2021年予算案>

	kCHF		
	2021年予算	2020年予算	2019年実績
収益	39,098	43,040	43,157
費用	39,098	42,257	39,302
剰余	0	783	3,855

- 収益9%減、支出7%減の予算案（COVID-19の影響が続くとしての緊縮財政）。
- high impactの規格は予想していないが売上げはゆっくり回復するとの考え
- キャパシティビルディングの資金確保が厳しい状況であるが、資金提供者を確保できそうである（UNIDO、PTB、Sida）

(決議27/2020)

議題5.1～ISO地域関与ポリシーの進捗報告

<背景>

- ISO地域関与イニシャティブ（シンガポール事務所）を設置（2013年）
- アフリカのISOメンバーを支援するパイロットプログラムを開始（2017年）。メンバー国より中央事務局に出向
- 事務総長が地域関与ポリシーを作成し、2020年9月の理事会で承認予定

<主な報告、意見>

- 事務総長が検討の進捗を報告し、地域関与の3つのモデル（中央事務局から各地域を支援するモデル、地域事務所モデル、両者の混合）を示唆
- 地域の特性やニーズに応じた支援が必要との意見がある一方で、どの地域にも平等な支援であるべきとの意見も強かった。
- COVID-19の影響でバーチャル対応が一気に進んだことにより、地域事務所型の支援ではなく、中央事務局からの直接支援の価値が高まったとの意見が多数を占めた

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2020年9月22－23日 バーチャル
- 2021年2月24－25日 ジュネーブ
- 2021年6月9－10日 京都
- 2021年9月22日 ロンドン

<総会>

- 2020年9月24日 virtual session for ISO members
- 2021年9月23－24日 ロンドン
- 2022年9月22－23日 シドニー

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット

kokusai@jsa.or.jp